

目指す学校像	心身ともに健康で 思いやりの心もち 主体的に学ぶ常盤っ子を育成する学校 ～子どもが「思い描く幸せ」の実現をめざす学校～
重点目標	1 児童が学ぶ楽しさを実感し、「本気で学ぶ」授業の創造 2 安心・安全で、落ち着いた教育環境の創出 3 学校、家庭、地域の連携・協働体制による社会に開かれた教育課程の実現 4 教職員の職務やキャリア段階に応じた資質能力(学校課題に対応する指導力)の向上

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和5年2月27日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均と比べ良好な結果である。 ○「自分発→みんな経由→自分行き」の学習スタイルが児童に浸透してきており、児童の自己肯定感を育てることにつながっている。 (課題) ○基礎的・基本的な知識・技能の定着や学力、学習意欲や自己肯定感については、個人差が大きいことから、ICTを有効に活用しながら、個別の手立てを講じていく必要がある。 ○授業で学んだことを、生活の中の事象に関連付け、さらなる追究や探究的な学びにつなげていく指導の工夫が必要である。	・「学びを追究する」児童の育成	1 「自分発→みんな経由→自分行き」をキーワードに、「吟味・検討」する活動を通して自分の考えを表現する授業を展開する。 2 「見通す→取り組む→振り返る」の授業を実践し、振り返りに小論文を取り入れる。	1 学校評価アンケート「学校は、考える力や表現力を高めるような授業の実施に努めているか」の肯定的な回答90%以上 2 学習の振り返りの記述の中に、自分の成長への気付きや、今後さらに追究したいこと等への記述が増えたか。				
		・児童の自己肯定感のさらなる向上	1 各種の学力学習状況調査等の振り返りを行い、各教職員が、学年、学級、児童一人ひとりの学習や生活の実態に応じ、児童の自己肯定感向上に資する具体策を自ら計画し、実践する。	1 児童アンケートの「自分にはよいところがあると思う」の評価項目における肯定的回答が昨年度比で増えたか。				
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、全国平均を上回っている。 ○コロナ禍の影響が完全には払しょくされていない中、日々の家庭生活や学校生活において、ストレスを抱えた児童がいる。 (課題) ○様々な背景を抱えている児童がいることから、学校、家庭、地域が連携をして、児童をサポートしていく環境づくりに取り組んでいく必要がある。 ○教職員による安全点検や、静謐な環境づくりはもちろんであるが、児童自身が安全への意識を高め、清潔で整理整頓された環境を創り出せるようにしていく必要がある。	・教育相談、生徒指導等に係る組織的な対応の充実	1 生徒指導、教育相談委員会や情報交換会を定期的に開催し、情報端末を活用して指導の蓄積や分析を行う。 2 生徒指導等の問題に、迅速、誠実、アフターケアを旨として対応する。教職員研修を実施する。 3 生徒指導や教育相談に関する教職員研修会を実施する。	1 定期的に校内生徒指導委員会や情報交換会、教育相談日を開催したか。その際、情報端末を活用したか 2 学校評価アンケートにおいて、生徒指導・教育相談等に係る設問で肯定的な回答90%以上。 3 講師を招いた生徒指導等に関する校内研修を実施したか。				
		・安全に生活しようとする児童の育成	1 整備された空間を維持するために「黙々清掃」を実施する。また、自己内対話の時間と捉え取り組む。 2 学校環境の整備と教材の充実のために、全職員による安全点検や備品整理を実施する。	1 日常の児童の清掃への取組状況を把握し、「黙々清掃」の実施を各学期1回以上行ったか。 2 学校評価アンケートにおいて、「学校は、環境を整え、安全であるか」の肯定的な回答95%以上。				
3	(現状) ○常盤中、常盤北小との3校合同の学校運営協議会を開催し、中学校区で目指す子ども像の共有を図り、合同で「あいさつ運動」を実施した。 ○コロナ禍による制限が解除される中、中止や縮小を余儀なくされていた諸行事を、行い方を見直しながら再開していった。 (課題) ○学校運営協議会で熟議した内容を具体的な方策へ落とし込んでいく必要がある。 ○本校95周年を機会に、児童がより主体となって地域と関わっていけるような取組が必要である。そのため、地域や外部の指導者による特別授業等を充実させる必要がある。	・「常盤エリア」を意識した学校運営協議会の開催	1 3校合同での情報・行動連携のための学校運営協議会を開催し、9年間を見通して熟議を行う。 2 コミュニティ・スクールを核として、本校95周年に向け、保護者・地域とともに。児童のコミュニケーション力向上に係る活動を展開する。	1 3校が連携した学校運営協議会を2回以上開催したか。委員から出た意見を熟議の議題に取り入れたか。 2 学校評価アンケートにおいて、コミュニケーションの基本である「あいさつ」に関する設問における肯定的な回答90%以上。				
		・目指す児童の姿を家庭や地域で共有するための教育活動の公開	1 本校95周年をお祝いできるよう、学校行事はもとより、授業参観等も含め、効果的に開催する方法を工夫し、運営する。 2 専門家やアスリートなどの外部講師を招いた授業を計画し、地域力を活用した魅力ある特別授業やキャリア教育を行う。	1 学校評価アンケート「学校は、保護者や地域の方々と協力し合って教育活動を進めているか」の肯定的な回答90%以上。 2 児童の発達段階や学年に応じた適切な特別授業、キャリア教育を実践できたか。				
4	(現状) ○昨年度の研究発表では、社会科と体育科の授業公開を通して、児童が「友達と関わりながら、自分の課題に向かって深く本気で学ぶ」姿を具現化することができた。 ○エバンジェリストを中心にした研修により、授業中におけるICTツールの活用が図られている。 (課題) ○日々の授業の中で、どの教員も、どの教科等でも研修の成果を生かした授業展開(本気の学び)ができるようにしていく必要がある。 ○ICTを活用したからこそその学びの在り方や授業改善の研究が必要である。	・教職員のボトムアップによる学校課題研究・校内研修の充実	1 研究主任を核とし、教職員のボトムアップによる研究を推進する。指導者として大学教授等の学識経験者を招く。 2 一人1研究、一人1回研究授業・公開授業を実施する。 3 校務用の端末等の活用により、ICTツールの活用についての日常的な情報交換を行う。 4 「校内パワーアップ講座」により、教職員の得意な分野の業務内容や、指導方法等について、有志の教職員による自主的な研修会を行う。	1 指導者を招いての研究授業や講話の学校研究を6回以上(学期に2回程度)実施できたか。 2 教職員の主体的な研究として、一人1研究に取り組んだか。 3 教育委員会が提供する「学びの指標」授業アンケートの「ICT活用」の項目の数値が市平均を上回ったか。 4 方策1～4の結果として、学校アンケートにおいて、学校への満足度に係る設問での肯定的な回答90%以上				